

2026年1月19日

関係各位

野村證券株式会社

**清水建設による本邦初のSEP船を資金使途としたブルーボンド発行を支援**

野村證券株式会社(代表取締役社長:奥田健太郎、以下「当社」)は、清水建設株式会社(代表取締役社長:新村達也、以下「清水建設」)による、洋上風力発電施設の施工に用いられる SEP 船(自己昇降式作業船)<sup>※1</sup>を資金使途としたブルーボンド(以下「本社債」)の発行を支援しました。本社債は 2025 年 12 月に策定した「ブルーボンド・フレームワーク」(以下「本フレームワーク」)にもとづき発行される社債であり、SEP 船を資金使途としたブルーボンドは本邦初となります。当社は、ストラクチャリング・エージェンツ<sup>※2</sup> および単独主幹事を務め、本フレームワークの策定から本社債による調達の実現まで一貫してサポートしました。

ブルーボンドは環境問題の解決を目指すグリーンボンドの一種であり、海洋環境や海洋資源を保全しながら持続可能な経済活動を支える「サステナブル・ブルーエコノミー」という考え方のもと発行されています。海洋環境や海洋生態系に配慮した洋上風力発電は、海上における強く安定した風をエネルギーとして活用する点でブルーボンドの資金使途となる「ブループロジェクト」に該当します。

清水建設は、環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」で、目指す持続可能な社会を「脱炭素社会」「資源循環社会」「自然共生社会」と定めています。これらのうち「脱炭素社会」の実現に向け、洋上風力発電の発展に一層貢献するため、洋上風力施設の施工に不可欠な SEP 船「BLUE WIND」を建造しました。また同船を資金使途とするブルーボンドの発行を決議し、16 日に条件決定しました。2023 年の初稼働以降、BLUE WIND の施工ノウハウは国内外において着実に蓄積しており、洋上風力発電施設施工のトップランナーを目指し、脱炭素社会実現に向けた取組みを強力に推進しています。

なお本フレームワークは、国際資本市場協会(ICMA)が定めるグリーンボンド原則 2025(GBP)、環境省によるグリーンボンドガイドライン(2024 年版)、ICMA 等<sup>※3</sup>による「A Practitioner's Guide for Bonds to Finance the Sustainable Blue Economy」(SBE ガイド)に適合しており、株式会社格付投資情報センター(R&I)よりセカンド・オピニオンを取得しています。

当社は今後も、企業と資本市場との建設的な対話の橋渡し役として、企業の持続的な価値創造を支援していきます。

- ※1 洋上風力発電施設の施工に使用される作業船。4本の脚をジャッキダウンして海底に着床させ、船体を海面から浮上させて自立することができ、海が荒れて波が高い時でも影響を受けず、安定した姿勢で施工することができる
- ※2 ブルーボンド・フレームワークの策定およびセカンド・オピニオン取得に関する助言等を通じて、ブルーボンドの実行支援を行う者
- ※3 ICMA、国際金融公社(IFC)、国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)、国連グローバル・コンパクト(UNGC)およびアジア開発銀行(ADB)

SEP 船「BLUE WIND」



出所:清水建設

【ご参考】

[清水建設によるブルーボンド・フレームワーク](#)

[R&Iによるブルーボンド・フレームワークについてのセカンド・オピニオン](#)

以上